

11 広報広聴活動

農業農村整備部の取り組みについて一般の方に紹介するための活動を行っています。

事例① 広報紙「ほくぶNNだより」、「栗原NN通信」の発行

北部地方振興事務所、栗原地域事務所ではそれぞれの広報紙「ほくぶNNだより」、「栗原NN通信」を発行しており、管内の事業実施地区の紹介や農業農村整備事業に関する地域の活動、イベントの様子等を紹介しています。

「ほくぶNNだより」、「栗原NN通信」は県のホームページから閲覧できます。



事例② 農業農村整備事業学習会の開催

北部地方振興事務所では小牛田農林高等学校農業技術科農業土木コースの生徒を対象に「農業農村整備事業学習会」を開催しています。

令和7年度は6月に現場見学、12月に講義及びワークショップを開催しました。現場見学では二ツ石ダム、色麻町農業伝習館、桑折江頭首工の見学などを行うことで、大崎地域の農業用水や世界農業遺産「大崎耕土」について理解を深めてもらいました。

講義及びワークショップでは「農業・農村についてたくさんの人に知ってもらうためには」というテーマをもとに、農業・農村が抱える問題やその解決策について議論しました。このような活動を通して、農業農村整備事業について理解を深めることができました。



ワークショップの様子(美里町)

事例③ 田んぼダムの普及活動

北部地方振興事務所では、令和7年11月に美里町立中埠小学校・青生小学校の児童を対象に、栗原地域事務所では、令和7年8月に栗駒山麓ジオパークビジターセンターにて、子供から大人までを対象に、10月に栗原市立志波姫小学校・宮野小学校の児童を対象に、「田んぼダム出前講座」を行い、パネルや模型を用いて田んぼダムの仕組みについて説明をしました。出前講座を通して、田んぼダムの役割や効果について学んでもらうことができました。

また、栗原地域事務所では、市役所各総合支所やJRくりこま高原駅等でパネル展示を行いました。

今後も、このような活動を行い、田んぼダムのさらなる普及拡大に努めていきます。



講座の様子(栗原市)

事例④ 世界農業遺産「大崎耕土」巧みな水管理施設のPR

大崎耕土は、平成29年12月12日に「持続可能な水田農業を支える『大崎耕土』の伝統的水管理システム」として世界農業遺産に認定されました。世界農業遺産は、世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域（農林水産業システム）を国連食糧農業機関（FAO）が認定する制度です。世界では29ヶ国104地域、日本では17地域が認定されています（令和8年1月現在）。

北部地方振興事務所では、大崎耕土の代表的な巧みな水管理施設の歴史や地域の取組みをまとめ、「水物語」として県のホームページに掲載しています。また、宮城県大崎合同庁舎及び大崎市図書館にて、大崎耕土の巧みな水管理システムの普及・啓発のため、10施設についてのカードを配布しています。

なお、**本カードは施設の見学を促すことが目的ではありません。危ない箇所には絶対に近づかないでください。**



蟬堰(加美町)



南原穴堰(大崎市)



内川(大崎市)

ホームページへのアクセスはこちら

北部地方振興事務所農業農村整備部ホームページ

〈<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-sgsin-ns/>〉

北部地方振興事務所栗原地域事務所農業農村整備部ホームページ

〈<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khsgsin-ns/>〉



北部 NN



栗原 NN